

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
平成30年度 第4回就労支援部会 会議録

日時 平成30年12月13日(木) 13:35~15:20

場所 乙訓福祉施設事務組合大会議室

出席者 17名

乙訓ひまわり園、こらぼねっと京都就労移行支援事業所ステージ、しょうがい者就業・生活支援センターアイリス(2名)、就労移行支援事業所ピオニー、乙訓若竹苑、京都府立向日が丘支援学校、京都七条公共職業安定所障害者職業相談室、乙訓保健所福祉室、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課

欠席者 6名

就労移行支援事業所ピオニー、乙訓やよい福祉会、長岡京市商工会、乙訓青年会議所(2名)、向日市障がい者支援課

事務局 2名

傍聴者 0名

配布資料 ・次第
・庁内実習の流れ
・乙訓圏域障がい者自立支援協議会 就労支援部会主催 自由討論会

議事の流れ

(部会長)

・第4回就労支援部会を始めます。式次第に沿って確認をしていきます。

1 11/28開催の「自由討論会」の開催結果について

(部会長)

・自由討論会のまとめ、意見の集約をしていなかったので参加された委員から感想を寄せていただきたいと思います。

(委員)

・初めてそのような取り組みをされていることを聞きました。施設で作っていたもので商品にならなかったものが企業に入っていただくことによって売れるものができる良いモデルだと感じました。とてもいい活動をされているのに施設の中にいる人間にはあまり伝わっていないので、うまくつながって1つのものを作りあげることができればと感じました。

・学校の教育と企業の関わりもとても必要だと感じました。その連携を深める為にこの部会が関わることができればと感じました。

(委員)

・私もこういう機会は初めてで大変勉強になりました。竹を使ったものづくりを通して企業と学校などがどう連携をしていったらいいのかを考える上で有意義でした。

(委員)

・後半聞かせていただいた中で、私自身はこちらの出身ではないのですが、乙訓には竹や寺社仏閣など色々なところがあってとても魅力的な地域だという認識をしました。

(委員)

- ・会場が町屋で皆さん座りながら竹の話聞く雰囲気良かったですと思いました。
- ・鯨坂さんの進行がとても上手で、会話を拾ってぱっとネットで調べたものを映し話の展開をされるなどとてもおもしろいと感じました。
- ・当日の写真を回覧します。

(部会長)

・竹の箸づくりには学校も長岡京市商工観光課も関わっています。長岡京市観光協会もバックアップをされています。西田課長さんとバスハウスの片山さんから観光協会に話があって、秋の光明寺にて1膳1000円で売ると売れ残ったそうです。どうしようかなということで次は価格を900円にすることを了承してもらって、春の長岡天満宮で売るとほぼ完売だったそうです。値段の付け方など色んな方法があると思いました。

・バスハウスで箸を作っているのですが、作り手不足で要望される数に追いつかないので、菱川にできた生活介護とB型の「エンデバーらうれあ」でも作り始めたそうです。治具の購入は必要ですが、そういう形で共有し、仕事の創出というところで広がっていけばいいなあと感じています。

・生田さんはまず居場所からということでそれを拠点として地域の中で広げていきたいと言われていました。セブン通りかどこかに駄菓子屋さんを作って小さいお店を増やす形をめざしたいそうです。

・森口さんもその人にあった仕事を見出したいと言われていたので、人が集まる取り組みは乙訓でも共有したいと思います。

・私は教員なので、生活をしていくための収入をどうしていくかも課題としてあると思いながら聞かせてもらいました。

・討論会が終わってから、バスハウスの藤田さんは「僕も就労部会でいっしょにやらしてください」、乙訓の中小企業同友会の白井さんは「できることから始めたらいいですね」、乙訓支部長の多貝さんも「協力するといいながら何から始めたらいいのかわからなかったけれど、とにかくみんなで集まってやってみようという段階から始めるといいとわかってちょっと肩の荷がおりました」、長岡京市の議員さんは「私も色んなことをしているので何かお役に立つことがあれば」と言われていました。聞きに来られた方には何かしらおみやげになり協力者として今後やっていけるのではないかと思います。

(委員)

・アイリス登録者の就職面接の同行や実習依頼などで企業にお願いすることが多いのですが、企業の方にもメリットがないとなかなかつながりは持てないのではと考えていました。ここまで熱を入れて下さっている高野竹工さんにはどんなメリットがあるのかお聞きしたいと思っていました。西田さんは「企業にとっても原動力になっている」「街づくり、地域の財産を使いながら環境を作りあげていくことが結果的に企業にもメリットが大きい」など、街や地域の環境を作る就労ネットワークの必要性についても語っておられました。

(委員)

・3年か4年ほど前、もともと森口君が作ったこけ玉を新宿の伊勢丹で販売するのに器を乙訓だから竹にしようということで高野竹工さんと接点ができたと始まりだと思います。

・僕が印象的なのは、高野竹工さんが支援学校に見学に行かれたことです。「頑張っている生徒さんはこういう力を持っているのか、こういう願いがあるのか」と実際の様子を見ていただいたのが大きかったと思っています。たくさんのノウハウをお持ちなので専門的な治具を提案していただきました。教育現場では発想がなく周りにある工具だけで勝負しようと思ってしまいます。

・ハローワークから色んな情報を得ながら福祉や学校側の実習先開拓、就労先開拓、職場定着のために頑張ることは大事なことだと思うのですが、企業の方が学校や例えばひまわり園や若竹苑のB型を見学に来られる接点づくりがこれからの1つのキーワードになるのではと思って話を聞かせてもらっていました。来年は、企業と新たに連携し、双方の理解を広げる地域になっていくきっかけづくりの参考になる会だったと思います。

(部会長)

・企業、福祉、学校、行政のつながりを作り、来年度以降何かできたらいいなという方向につながっていくと思います。

2 企業訪問の成果などについて

(部会長)

・2番、企業訪問の成果に移ります。

・石井さんに8社紹介していただいて、日程調整をアイリスにお世話になり、2、3名で回りました。行かれた方で概略報告をお願いします。

(副部長)

・当初30分ぐらいでとアドバイスされていたのですが、話が盛り上がり1時間ぐらいの訪問になりました。以前、若竹苑に工事に来ていただいていた経緯があって、社長さんが私のことも覚えていただき話がはずみました。その工事中に若竹苑の利用者を見る機会があって、こういう働き方ができる、こういうことがうちでもできるのではないかと感じていただけたのが大きいと思いました。

・今、人材不足解消のために外国人をと言われていますが、障がい者も人材として考えておられました。世の中の動きとは違う視点を持たれている印象を受けました。

・親戚に障がいをお持ちの方がおられて、その子が一生懸命働いているのに工賃がとても低いことを知って驚かれ「これでいいのか」という思いがあるとのことでした。わりと関心をもっておられると感じました。

(部会長)

・何か一緒にできそうだと捉えていいですか。

(副部会長)

・そうですね。

(委員)

・障がい者のイメージが知的障がい者のようでした。精神、発達、難しいですが難病にも触れたのですが反応が薄かったのでこれから知って貰いたいのがいいのかなと思いました。

(部会長)

私が訪問した会社は、設計の会社で、ひまわり園とあらぐさの測量で関わりがあり、ひまわり園の竣工式にも出席されたそうです。その関わりがもとで何か出来ないかとなり、月1回土曜日9時からマルシェ朝市を開催しておられます。前日に品物を預けて社員さんがボランティアで売っておられるとのことです。近所の主婦が来られるので農家の野菜を中心に販売されて、その横にひまわり園やあらぐさのクッキーもおいているそうです。売れ残った分は月曜日に返却されます。10月10日に90回目を迎えたそうです。この5年間ずっとチラシも印刷して社員さんが近隣に手配りされていてかなりの手間です。長岡京市の広報に載せてもらうように頼みに行ったけれど難しかったとのことでした。どなたでも商品をおくことが可能なので他の乙訓の福祉事業所にもこの情報をあげればいいのではないかと考えています。

- ・ 中小企業なので昼間の会議などへの出席は難しいけれど夕方からだと出られるとおっしゃっていました。

(委員)

私が訪問した会社は、長岡京市のバンビオで行っているサマーナイトカフェに参加しておられ、同じく出店されている中にエポカがあるとの認識はおありだったようです。

- ・ 接客が主な仕事内容なので雇用となるとどこまでしてもらえるのかイメージするのが難しいとおっしゃっていました。
- ・ 同友会としてどのような協力ができるかいっしょに考えていきたいということでした。

(委員)

私が訪問した会社は、求人を出してもなかなか応募がないので、社長さんお一人が積極的に始めようとしていられる状況があります。でも現状では、まだ若い社員が多くてその人達をもう少し一人前にしてからでないかと障がい者雇用は難しいとのことでした。それはいつかということ3年ぐらいとおっしゃっていました。

- ・ 発達障がい的小朋友さんがいる従業員がおられて、障がい者雇用の話を出してみたら本気で勉強していかないと無理じゃないかと言われてたり、従業員の中で発達障がいの傾向が見える方がおられて、でも手帳を持ってないので理解がしづらいなど障がい者に対する思いが社員さんの中でもあるらしく、現状からするとすぐの受け入れは難しいとおっしゃっていました。
- ・ ハローワークの笹村委員と一緒にいったので助成金のことや健常者と同じ給料を支払わなければいけないのかなどの質問があがっていました。
- ・ 訪問時に持参した支援学校の技能検定のチラシにはすごく興味を持たれたようでした。
- ・ 障がい者雇用はまだまだ先の印象はあったけれども社員さんの思いとしては人材不足を補う方法として検討していこうかなと言う気持ちが見えました。今後は一緒に考えてもらえる企業になる可能性を感じました。

(副部会長)

- ・ 何をされている会社ですか。

(委員)

・ 手づくりの家具です。家具職人の求人をハローワークに出されていて以前は希望する人はあったのですが、今はなかなかなくて。受注は結構あって仕事は忙しいみたいです。

(委員)

・2階の木工作業場を見学させていただきました。

(委員)

・京都は家具職人の専門学校が少なく、若い人を育成するのは全国的には山林が多い地域だと思います。この会社のホームページには大きな家具を作っておられるのが出ていました。

(委員)

私が、GMとアイリス2名で訪問した会社の報告です。

・他の企業同様に障がいを持たれている方のイメージが思いつかず、テレビや色んな情報の中から把握されているようでした。

・できることがあればさせてもらえたらと思っていますとのことでした。

(委員)

私が、ひまわり園の井上委員と大山崎町吉田委員とで訪問した会社の報告です。

・10年以上前に一人障がい者の方を雇用して車の掃除や洗車などをやってもらっていたとのことでした。現在は高齢者の再雇用を2名受けているそうでそちらにも関心がある社長さんでした。

・コミュニケーションがとれることが必要で、急にトラックがバックするなど危険が伴う工場なので、障がい者の方を今すぐに雇うというのは難しいかもしれませんというお話でした。

・伏見の同友会に所属して龍谷大学深草キャンパスの大食堂にて年1回大きなイベント（東南フェスタ IN 龍谷）をされているそうです。伏見の作業所には出店をしてもらっているので乙訓の方でも関心があれば参加は可能とっていただきました。

・初めて僕も行かせてもらいましたが、また新たなつながりをつくらせてもらったと喜んでます。

(委員)

私が、11月16日に夏川部会長と訪問した会社の報告です。今回の自由討論会にも来ていただいた方です。

・障がい者雇用に関しては、知らずに雇ったことがあると言われていました。なかなか指示が入らない、決まった身だしなみが整えられないなどあって解雇となったそうです。あとから知的障がいがあったとわかったのであらかじめ教えてほしかったとおっしゃっていました。

・白井さんは内装をする会社をなさっています。主な仕事は、親方について現場で内装の仕事をする、請求書などの事務作業、仕事を取ってくる営業だそうです。

・内装の仕事は、親方の指示や建築現場のルールに従って仕事が出来ればいけれど、実際にはそれを満たすのはなかなか難しいと言っておられました。

・実習や見学も建築現場は安全面から関係者以外の立ち入りが厳重なので難しいそうです。現場をビデオで撮って了解が得られれば見てもらうことは可能だとおっしゃっていました。

・それと中京区でシェフを雇ってケーキ屋さんもされているそうです。店舗もあるのですが中心はインターネット販売で、そこに「障がいをお持ちの方のケーキ」という感じで載せるお手伝いはできるとおっしゃっていただきました。責任を持って各施設がしていただけたらと言われていました。

・中小企業家同友会のインクルージョン部会は全体の中では特殊な存在だと言われていました。とても熱心な方で協力して下さるような印象を受けました。

(部会長)

・実習や販売については工夫も必要ですが相談は可能だそうです。市役所の裏に小さなケーキ屋をお持ちですが、コーナーを作って注文が入ったら直接お客さんとのやり取りをするなど福祉の事業所でやっ

でもらう形ならお手伝いできますとおっしゃっていました。

(委員)

同じ日に、夏川部会長と行かせていただいたもう1社の報告です。

- ・やよい工房で作られている「ぼかし」を店頭で置くという形で障がい者支援をされています。
- ・以前に店舗で発達障がいの方を雇用したことがあったのですが、その方は自傷行為があって他の社員さんがなかなか受け入れられなくて継続雇用が難しかったそうです。それ以降は障がい者の方を雇用されていないようです。店頭での仕事は、水やりだけなど業務を限定することは難しく、お客さんの対応やクレーム処理、お花に関する専門的な知識の習得が必要で他の社員さんの教育もまだできていないとおっしゃっていました。
- ・障がいをお持ちの方がハウス栽培されている植物を商品としていいものができるようであれば販売することを検討しているとおっしゃっていました。
- ・会社の理念に「地域に貢献する」と掲げて、地元中学校の職業体験を受け入れておられます。障がいをお持ちの方も雇用は難しいが体験実習の受け入れは可能だとおっしゃっていました。ただ、繁忙期は難しいので、真夏、真冬の条件の厳しい時になるとおっしゃっていました。
- ・年4回行うセールに手作り品を中心とするマルシェへの出店や、教室として使うスペースがあるので施設の方に使っていただくことも可能だとおっしゃっていました。
- ・就労支援部会の理念には賛成はできるが、会議の時間と出かけられる時間があうかが難しいとおっしゃっていました。

(部会長)

- ・マルシェは駐車場を使って出店されています。地域貢献の場として屋根イベントルームでの花の寄せ植え教室や裏の竹藪での筍掘り体験教室なども始められています。今後は、子どもの読みきかせなどもありたいとおっしゃっていました。
- ・8社手分けして回った報告でした。こんな場所で販売ができますよ、使い方としてこんなことを考えておられますなどの情報をまとめて地域の福祉事業所にどのように提供していくのかこの後考えていきたいと思います。
- ・GMと一緒に長岡京市の商工観光課、乙訓の商工会議所、長岡京市の観光協会にも行きました。
- ・観光協会では2020年の大河ドラマが明智光秀になったので、ガラシャ夫人のお玉ちゃんを売り出したとのことでした。そのキャラクターは、長岡京市にある立命館中高の生徒に作ってもらって包装紙やシールにするそうです。
- ・観光協会は、品物を1階に置くことはできるのでいいアイデアがあれば福祉の方も一緒に関わられるのではないかとのことでした。
- ・商工会では、来年の2月に乙訓で働きたい人の就職フェアをバンピオの1階でされるそうです。今年で3回目ですが1回目、2回目では18から23社がブースを出して80人から90人の来場があったと言われていました。平日の1時から3時でその前後の時間に話を聞いてもらうことも可能です。ブースによっては日本電産などが人気で、建設業には誰もいない状況があったそうです。実際に見てもらってこんな仕事だったら障がいを持った人でも働けるなどということも勉強になるのではと教えていただきました。
- ・企業訪問の結果は以上のようなことでした。いろんなところからの引き出しが広がってきて、どうそ

の引き出しを使うかが課題だと思います。

3 庁内実習の進捗状況について

(委員)

- ・ 庁内実習は配布資料にあります実習計画一覧表の通りで、すでに二つ終了しています。
- ・ 乙訓圏域の企業に実習を検討してもらうきっかけづくりになればと庁内実習を去年から開始しました。今後実習を広げて行く必要があるかもしれないので、調整役をしてくださっている向日市の宮川委員が庁内実習の流れを作成されました。大山崎町は2回目、長岡京市は1回目、乙訓保健所は窓口が変わられたので1回目みたいなもので、それぞれ役所自体は回数を増やすことで慣れてきますが一定の様式をまとめる方がいいという話が今年度始めに出ていました。今年度も実習者と受け入れ機関、支援者にアンケートを書いてもらいそれも振り返りながら作りたいと庁内実習班では話が出ています。

(部会長)

- ・ ありがとうございます。何かご意見やご質問などありますか。
- ・ なぜ庁内実習をしているのかということを確認したいと思います。

(委員)

- ・ そもそも乙訓圏域の企業で実習を取り組んでいただくきっかけとして、行政からということで庁内実習をしていたと思います。今後庁内実習の担当者が変わることもありますし、企業の方に安心して受けていただく手助けになるのではということで流れを作っているところです。あと2回の実習とアンケートを基にもう一度詰めたいと宮川委員と話しております。

4 今年度のまとめと次年度に向けて

(部会長)

- ・ 去年から始まった就労部会ですが、一般就労と福祉就労ということで、障がいのある方の経済的な自立について考えていきたいと思いますということで去年は三つの班に分かれて活動しました。去年一般企業への訪問があまりできなかったのが、今年度は京都の中小企業家同友会の石井さんをお招きして、京都南部のネットワーク会議の様子やその効果などのお話を聞きました。

- ・ 乙訓の中小企業家同友会8社を紹介していただいて回りました。協力できるよと言っているからその企業に来ていただきネットワークができないかと思っています。

- ・ そこで提案ですが、就労支援部会だけですべてをやっていくのはかなり難しさが見えてきていますので役割を分担しながら就労部会で取りまとめていく形がいいのではと思っています。企業とのつながりの部分は、乙訓で就労支援のネットワーク会議を新しく来年の4月から作って障がい者の一般就労の促進に軸足をおいた取り組みが出来ないかと思っています。就労支援強化の部分では、庁内実習を福祉事業所が利用できる形を作って企業実習できる人を見出だし、ネットワークの企業もいっしょに見に行つて次の実習につながれば庁内実習の役割も進むのではないかと思います。そういうことを考えて、来年度も石井さんにもお手伝いいただいて、乙訓の中小企業家同友会の方を中心にネットワークを作っていければと思っています。

- ・ もう一つは工賃向上のために販売の場をひろげていくことです。企業訪問の中で協力していただけるいろんなヒントがありましたので、この情報はA型B型の事業所に流していく必要があると思います。

その役割を乙障協に担っていただければ有り難いと思います。乙障協のどなたかに就労支援部会に出席願って工賃の向上についてどのように取り組むかを考えていただけないかと思っています。福祉の方に渡す情報を1枚にまとめて部会員で乙障協の会議に行ってお話しする形になるかと思っています。福祉事業所も福祉就労の工賃の底上げをと思っておられると思うので、乙障協の方には福祉就労の促進を担っていただけないかと思っています。

- ・それから自立支援協議会の就労支援部会は、行政が来られる場でもあるので、行政に力を借りてまとめ役をお願いして庁内実習を残し、きちっと行っていきたいと思っています。

- ・乙障協と就労支援のネットワーク会議から部会員としてどなたかここに出席していただいて、相互に連携することができればと思っています。

- ・それから相談支援事業所が持つておられる発達や精神障がいの方の就労された方の困難ケースの検討や学習会もできればいいのではないかと思います。自立支援協議会は就労に関しての課題を明らかにしてどのように解決していくかを発信する場でもあるのでそういう場として残してはと思います。

- ・以前雇用プロジェクトがあった時には就労フェアも開催されていましたが、役割分担をするのであればお互いに連携し合った上でフェアの開催も考えていきたいと思っています。

- ・もう一つ、就労支援のネットワークにたくさん来られるので、企業に福祉の現場で働いておられる障がい者の方を見学してもらうことも考えたらと思います。

(委員)

- ・あまり欲張りすぎると最初からつぶれそうな気がします。部会と役割分担するというイメージでしょうか。例えば庁内実習から次の企業実習へというのがネットワークで、ワークフェアのようなイベントは部会でみたいに、両方をネットワークでやろうと考えなくていいと思います。ネットワークは実習に特化して具体的に企業と実習生をつないでいくような感じでいいですか。

(部会長)

- ・ネットワークは企業に来ていただく会議になるので庁内実習や福祉の事業所にいっしょに見学に行つてはどうでしょうか。企業も都合があるので年間計画を立て案内して障がい者理解を始めたらと思います。現場を見られて企業実習につながればいいですね。

- ・職場開拓も必要なのでジョブパークに大きな会社を紹介していただいて回ることもできると思います。JR 長岡京の裏の村田さんの本社も障がい者雇用についてジョブパークに声をかけておられるそうです。高校や大学の障がいをもった方向けの実習がないと言われていて、ステージさんと見学に行きました。椿本さんは特例子会社を作られると聞いて即見学に行つて、これから実習をしていく予定です。

(委員)

- ・中小企業家同友会の方を白井さんたちに連れてきてもらつて、私たちはこの圏域の企業を開拓していくイメージですか。

(部会長)

- ・8社回つた中でも実習までは時間がほしい部分があるので、まずは庁内実習の見学や実際に働いている姿を見に来てもらう形を取るのが現実的かといいます。

(委員)

- ・石井さんがこれをきっかけに少しずつ横のつながりが広がり、同友会に入っていない企業にも障がい者雇用についての情報がお伝えできるのでというお話もありました。この8社にもいきなり実習や雇

用ではなく、自立支援協議会の活動の報告させてもらうという受け入れでした。今回具体的に見えてきたので乙訓にはまだ35社あるようなので今後の訪問のきっかけにもさせてもらえたらと思います。

・今回B型事業所にアンケートの聴き取りに行きましたが、その中には乙障協に入っていない事業所もあると思います。そこにはどのように情報を伝えたらいいでしょうか。

(副部会長)

・乙障協に入っていないなくても工賃向上の取り組みはハードルが高いと思います。今回、庁内実習をB型事業所にも声をかけましたが手が上らなかったことが象徴的です。就労のステップアップまで手が回らない。現状維持か国から言われているから工賃向上をめざすかです。マルシェなどがあって声をかけても最近そんなに乗ってくる事業所はないという印象はあります。自分のところで開拓をしているかということそうではないので、企業とマッチしていくは非常に難しいと思っています。AやBを巻き込んで工賃向上の取り組みとなっても事業所の考え方がまちまちなので乗ってくる場所と乗ってこない場所の差がすごく大きいと思うので乙障協に声をかけたとしてもその中でも大きな差が出ると思います。

・むしろ庁内実習をBやAにどのようにつなげていくかが来年度課題になってくると思います。アイリスの利用者は就職したいと思って登録していると思いますが、BやAの中で一般就労したいという利用者を職員が把握してつなげていく道筋にこれは使っていったらいいと思います。

(部会長)

・実習者がアイリスなどからしか出ていないので案内の仕方も工夫いると感じています。

(委員)

・実習の参加基準を昨年度は1日出来る人としていましたが、今回は短時間2、3時間でも良いとしました。モチベーションを上げるきっかけとして庁内実習を利用するのであれば検討の余地もあると思います。ただ期日が迫っていたので今年度は調整できないので見送りますという返答でした。

(部会長)

・実習受け入れ時期が毎年決まってくればまた来年ということもできると思います。一度自分の力を試してみる場ということで案内をしていったらいいかと思います。

・乙障協の設立の目的は何ですか。

(副部会長)

・出来た時は乙訓にある通所系の事業所が集まってお互い情報交換や連携しましょうという感じだったと思います。今は相談や児童の事業所が入って増えています。月1回ぐらい役員会をして年2回ぐらいみんな集まって全体会をされています。あと、年1回テーマを決めて職員の勉強会をされています。結構今の乙障協の注目点は福祉人材の確保かもしれません。会長は輪番で各施設から出ています。あとはガラシャ祭りのバザーへは乙障協でとりまとめをして出店しています。

・乙障協にAの事業所は入っていません。施設利用者数換算で会費を徴収して活動されています。

(委員)

・今はあらぐさの永崎さんが窓口だと思うので、今回企業訪問で得た情報をどのように扱ったらいいのか相談するといいいと思います。

(副部会長)

・バザーをされている企業の情報を乙障協に提供したとしてもどれだけ動けるかわかりません。就労部

会がどうバックアップするかという話になるかもしれません。

(部会長)

・乙障協の窓口の永崎さんのところと一緒にいかせてもらって、情報の取り扱いについて来年度は就労部会もお手伝いしながら考えてもらうという形だと大丈夫ですか。

(副部会長)

・具体的な動きを示すと一緒に動いてくださる可能性は高いです。

(部会長)

・情報を一つの表にして出店販売できるところに手をあげてもらって、その表が埋まったら期日や準備など細かいことはそれぞれでしていただく。1回目ははじめてなので丁寧にやりとりしてもらって次から動きやすくなると思います。

(委員)

・自主製品の販売を考えている事業所にはこの情報を返した方がいいと思います。

(部会長)

・乙障協で2ヶ月に1回の会議があるならそこで情報を流して検討してもらい、次回返事をもらうとなると就労部会での手間はなく動きやすいと思います。

(委員)

・井上委員が乙障協の代表で出ておられるので一旦共有させてもらって、井上委員から永崎さんに声をかけていただきます。

(副部会長)

・就労に関するケース検討ですが、つまづいた場合かうまくいった場合なのかどんな形なのかイメージが湧きにくいです。

(部会長)

・去年委員から「就職の相談ケースを持っているがなかなか難しい」という話があって、部会でその話も聞きたかったのですが時間がなくてそのままになっています。ケース検討は堅苦しくなくできればと思います。

・できそうなことをたくさんあげてみてその中で来年度最初に「じゃあ何をしようか」と話をすると思います。庁内実習、ケース検討。就労支援ネットワークは何に重点をおくかは第1回のネットワークで決めてやっているうちに広がっていくと思います。1つは企業を中心とした見学会でしょうか。乙障協はこのあと話をしてどういう動きになるかはこれからだと思います。

(委員)

・就労支援ネットワークの委員のメンバーは？

(部会長)

・事務局はアイリスにお願いできるよう検討していただけたらありがたいと思いますが。

(委員)

・上司に相談します。

(委員)

・企業と行政ですか。

(部会長)

・行政は就労支援部会との連絡で委員ではないかと思えます。

・今この場で決めきれないので、アイリスが検討の結果、事務局を引き受けてくださるなら委員構成の案をだしてもらって3月までに考えたいと思えます。石井さんにも相談して決めるといいと思えます。

(委員)

・とりあえず始めて、少しずつでも進んで行けばわかってくると思うので一緒に勉強させていただく形で広げていけたらと思えます。

(部会長)

・笹村委員、色々なところで情報を聞いておられると思うのですが、どうでしょうか。

(委員)

・引き続きハローワークはどういう形で関わっていったらいいのかと考えていましたがまた検討ください。

(部会長)

・求人情報は全部ハローワークが持っておられるのでよろしくお願いします。去年は障がい者雇用ゼロの企業を紹介いただいて電話をさせてもらったのですが成果はあがりませんでした。

(委員)

・色々な形で情報を提供します。

(委員)

・次回最後の就労部会で新たな取り組みのネットワークの骨格が出てきてみなさんに賛同いただいて、次年度の第1回目の時にスタートするスケジュールが1番いいと思えます。京都市や山城北の前例に学びながら乙訓が今課題にしているものに対応できる独自の組織ができたらみんな大変喜ぶと思えます。産み出すのは難しいかもしれませんが、ぜひアイリスにもご苦労いただきながらみんなで作っていったらと思っています。

5 その他

(委員)

・3点ほど報告があります。

・今年6月1日現在の障がい者雇用状況の集計作業を本庁でやっているのですが、今年国の障がい者雇用の水増し問題があり、自治体でも同様のことがあってその対応に追われかなり遅れています。例年今ごろ民間と公的機関の状況を公表させてもらうのですが、民間については来年の3月下旬ぐらいになりそうで、国や地方自治体は今年の12月末に予定しています。

・それから今年4月から法定雇用率が民間は2%から2.2%に上がりました。その関係で障害者雇用率の未達成企業が増えています。その未達成企業の中でも障害者雇用率を達成するために必要な障がい者の人数が大幅に不足している企業については来年1月から2年間障害者雇い入れ計画というのを安定所長宛てに提出してもらわなければならないのですが今年もかなり多いです。乙訓管内で10数社雇い入れ計画を作成しなければならない企業が発生しています。

・それからもう一つ、人事院が来年2月に障がいがある方を対象に国家公務員の採用試験を行います。募集が始まり明日締め切りです。人事院の採用試験は一般教養試験があるのでなかなか知的障がいの方は受からないのですが、今回、厚生労働省が作文と面接だけで170名の常勤職員を全国で募集します。

その内 20 名が厚生労働省、残りの 150 名を各都道府県労働局で採用するので京都は大体 3 名ぐらいの採用枠があると思います。今月末に具体的な内容を厚生労働省のホームページで掲載するので公務員試験をご希望の方があればぜひ情報提供をお願いします。労働局では知的障がいの方をメインに一定の期間雇ってその後一般企業をめざすチャレンジ雇用を以前から行っています。近々そういう求人も出ると聞いていますので該当される方への情報提供をお願いします。

(部会長)

- ・今年の特例子会社を作る会社が多いように思います。

(委員)

・大きい企業はこれだけ法定雇用率が上がってくると特例子会社を作っていないとなかなか雇用率が維持できない。特例子会社を作ってそこで雇用率を一定維持しておいて 5 年ごとに上がっていくので本体でも頑張ると。

(部会長)

- ・企業開拓も今の話を聞いてちょっとエンジンがかかるなと感じます。
- ・では、次回、今年度最後の部会ですが、2月26日火曜日、1時半からお願いしたいと思います。場所乙福にて。
- ・中身としては「今年度のまとめと次年度に向けて」をみんなで確認することと、ネットワークの骨格の提案をしていければと

(副部会長)

- ・それまでに乙障協の方に行きますね。

(GM)

- ・3月12日の運営委員会にまとめの文章が出るようにお願いします。

(部会長)

- ・最後の部会前に集まる時間はこの部会終わってから決めて、そこで決定して次の2月26日は確認をする場ということをお願いします。
- ・乙障協は、まず井上委員に連絡をしてご都合をきいてもらって永崎さんのところに話に行くことにします。

(委員)

- ・井上委員に一旦連絡をして資料の準備をしておきます。

(部会長)

- ・では、これで終わります。ありがとうございました。